

第12図は、年齢階層別人口構成の今後の見通しをしめたものであるが、これによってみると、高齢者人口が、増加すること、生産年齢人口が増加の傾向を示すこと、中等教育人口は、前期、後期とも減少すること、小学校教育人口の減少がかなり大きいこと、幼児人口も漸減することなどが予想される。

生産年齢人口は、戦後のベビーブーム期に出生した年齢層が、生産年齢人口として、若いエネルギーを持って寄与することになるが、この年齢層にかける本県産業発展の期待は、質、量ともに大きなものがある。

後期中等教育期人口の増減の波は、もっとも大きいのが、漸減期にあたる計画期間は、数的減少を質的向上で補完し、激動する社会の担い手として、本県社会の発展の命運をにぎるものとなる。

このことは、前期中等教育期以下の年齢層にも適合する。教育の質的向上を目標として、教育諸条件を整備する必要がある。

高齢者人口の増加は、家族生活、伝統社会の近代化との関連と社会福祉の立場から、社会教育上の施策が求められよう。

本県人口の年齢構成の変化と人口の地域間移動とを総合的にとらえ、社会の激変に対応する教育が実効をあげる教育的編成が要請される。

第12図 県勢振興計画による年齢階層別人口構成の見通し

